

平成31年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

(劇場・音楽堂等機能強化総合支援事業)

自己点検報告書

団 体 名	公益財団法人可児市文化芸術振興財団	
施 設 名	可児市文化創造センター	
助 成 対 象 活 動 名	まち元気プロジェクト	
助 成 期 間	5	(年間)
内 定 額	27,113	(千円)

1. 事業概要

(1) 事業計画の概要

全体図（概念図）

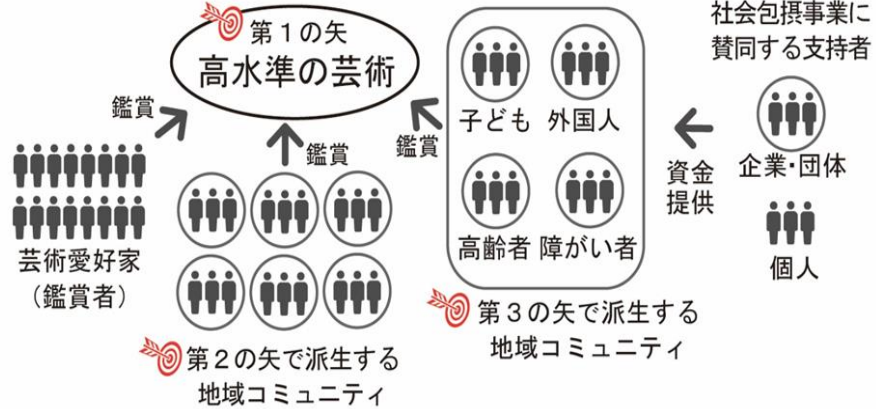
事業名：まち元気プロジェクト

【従来型の劇場経営】



一部の芸術愛好家向けの
選択的サービスにより
鑑賞者数が限られている

【私たちが目指す劇場経営】



文化芸術がコミュニティの細部まで浸透することで、社会を健全化し、劇場の鑑賞者や支持者開発に繋がります。

事業収益の増加
資金調達環境の向上
社会的コスト・受益者負担の軽減

第1の矢：感動と希望を生み出す最高水準の舞台芸術

<p>地域から全国へ質の高い舞台芸術の創造発信</p> <ul style="list-style-type: none"> ○プロの創作現場を市民が支える地域ならではの創造環境の確立 ○質の高い舞台芸術の東京一極集中からの脱却 ○市民が誇れる創造活動の拠点形成 ○地元アーティストとの連携による地域に根付いた創造活動 	<p>英国を代表する劇場との劇場提携</p> <ul style="list-style-type: none"> ○共同制作による世界水準の舞台芸術の創造発信 ○人材交流による制作能力の向上と英国人講師によるワークショップ等による社会貢献活動の強化 	<p>日本トップクラスの芸術団体との地域拠点契約</p> <ul style="list-style-type: none"> ○質の高い芸術の鑑賞機会の提供 ○地域密着型マーケティングによる鑑賞者開発と定着化の実現 ○芸術団体と市民との関係性の構築
<p>市民に寄り添うマーケティング</p> <ul style="list-style-type: none"> ○当日ハーフプライスなど多彩な割引システムによる鑑賞環境の向上 ○パースデーサプライズやアフタートークなどによる特別な一日を演出する思い出づくり ○劇場ボランティアの育成による鑑賞者サービスの強化 ○フレンドシップ会員による顧客の管理とサービス強化 	<p>鑑賞モニターによる評価システム</p> <ul style="list-style-type: none"> ○公募して集めた市民による鑑賞モニターとの意見交換 ○鑑賞者アンケートによる鑑賞サービスの向上 ○理事・評議員による事業評価 	<p>企業と連携した青少年&貧困家庭鑑賞機会提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ○地元企業の社会貢献活動の促進 ○青少年の鑑賞機会の提供 ○貧困家庭の鑑賞機会の提供

(1) 事業計画の概要 (つづき)

全体図 (概念図)



第2の矢：人と人をつなげていく市民総活躍社会の実現

市民活動の発表の場の提供

- 舞台芸術専用のステージと専門的技術スタッフによる市民の発表の場の提供
- 市民の芸術活動の広報宣伝協力
- 施設利用者アンケートによるサービス強化

コミュニティ作りのワークショップ

- 音楽、演劇、伝統芸能などのアーティストによる定期的な講座やワークショップによる芸術活動の活性化と地域コミュニティの創出
- 参加者アンケートによるサービス向上
- アーティストと市民の関係性作りの強化

実演芸術家とコミュニティアーツ・ワーカーの育成

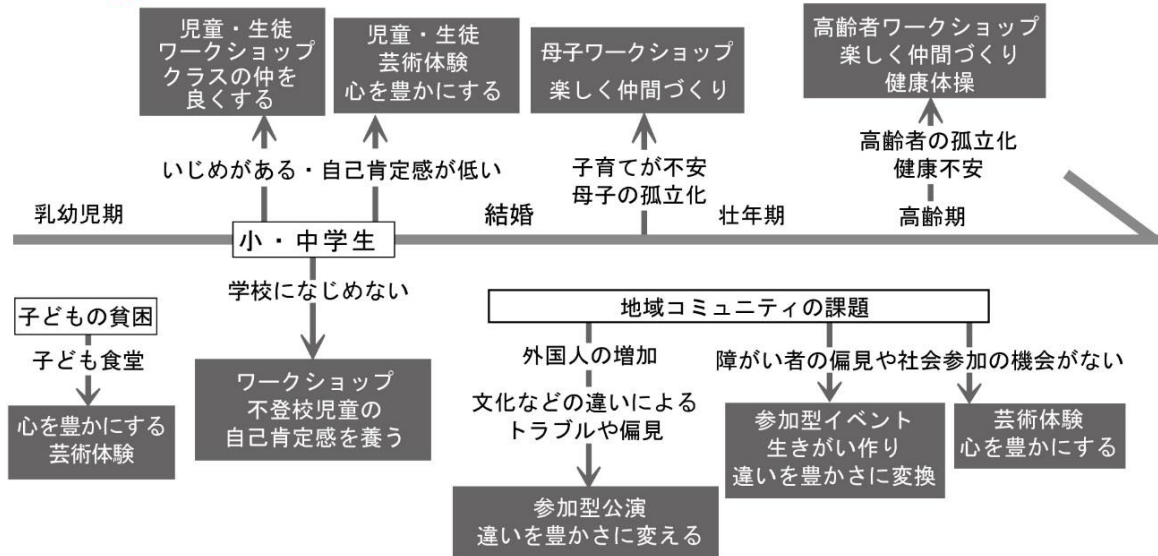
- 若手実演芸術家の育成による実演芸術の向上
- コミュニティアーツ・ワーカー育成によるコミュニティ事業(ワークショップなど)の拡大と質向上。
- ※コミュニティアーツ・ワーカーとは、地域コミュニティの関係改善のために活動するアーティスト

市民参加型の大型公演

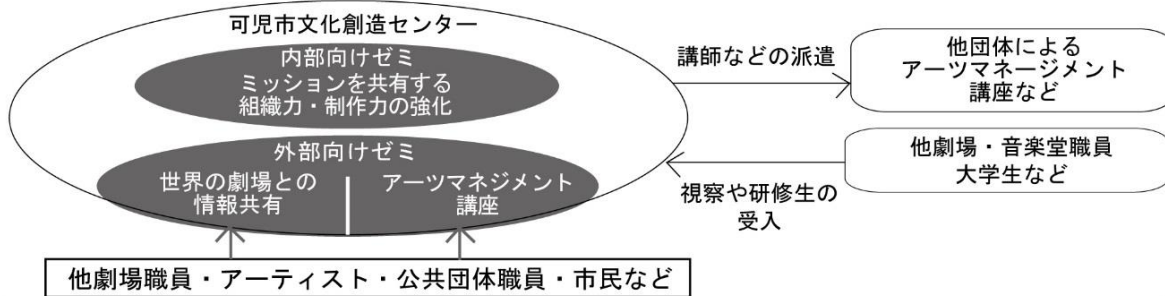
- 創作活動を通して、参加者同士の絆を深め、最高の思い出づくりを演出
- 一流の演出家との共同作業で、質の高い作品を創作し、芸術活動の発展と活性化を促進
- 鑑賞者の発掘



第3の矢：生き辛さを解消する文化芸術によるセーフティネット



組織力と制作能力の強化と同時に、全国に優れた人材を育成



(2) 平成31年度実施事業一覧

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	日英国際交流事業 『To See You, At Last プロジェクト』	8月12日(月)	演目：『To See You, At Last』(日英合作) 参加・出演：日本人6名、英国人8名 演出：アレックス・フェリス、藤井ごう	目標値	108
		可児市文化創造センター演劇ロフト		実績値	65
2	新日本フィルハーモニー交響楽団 サマー・コンサート2019	8月24日(土)	指揮：井上道義／ヴァイオリン：辻彩奈 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 プログラム：ベートーヴェン交響曲第6番へ長調「田園」op.68、他	目標値	750
		可児市文化創造センター主劇場		実績値	842
3	文学座公演 『ガラスの動物園』	7月24日(水)、25日(木)	作：T.ウィリアムズ 翻訳：小田島恒志 演出：高橋正徳(文学座所属) 出演：塩田朋子、亀田佳明、永宝千晶、池田倫太郎、ほか	目標値	360
		可児市文化創造センター小劇場		実績値	456
4	シリーズ恋文 vol.10	11月2日(土)、3日(日)	演目：『恋文コンテスト』にて全国から集められた恋文 出演：辰巳琢郎、木の実ナナ 音楽・ピアノ演奏：黒木由香 構成・演出：鈴木聡(劇団らっば屋主宰)	目標値	460
		可児市文化創造センター小劇場		実績値	355
5	多文化共生プロジェクト2019『にぎやかなお葬式』	9月22日(日)	演目：『にぎやかなお葬式』 作・演出：鹿目由紀 出演：24人(ブラジル6人、フィリピン3人、ペルー1人、日本14人) サポーター：4人(ブラジル1人、日本3人)	目標値	110
		可児市文化創造センター演劇ロフト		実績値	154
6	森山威男ジャズナイト2019	9月21日(土)	出演者：森山威男(ds) 渡辺ファイアー(as) 川嶋哲郎(ts) 佐藤芳明(acc) 田中信正(p) 水谷浩章(b) 相川瞳(per) 曲目：「Sunrise」他	目標値	700
		可児市文化創造センター主劇場		実績値	638
7	新日本フィルハーモニー交響楽団 ニューイヤー・コンサート2020	1月5日(日)	指揮：広上淳一 演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 司会：田添菜穂子(フリーアナウンサー) プログラム：「ロンビ」／「女王ルイーゼのワルツ」他	目標値	830
		可児市文化創造センター主劇場		実績値	812
8	新日本フィルハーモニー交響楽団メンバーによるオープン・シアター・コンサート	6月13日(木)	演奏：新日本フィルハーモニー交響楽団 プログラム：モーツァルト「アイネ・クライネ・ナハト・ムジーク」他	目標値	720
		可児市文化創造センター主劇場		実績値	609
9	文学座俳優による子ども向け舞台『さるかに合戦』	8月31日(土)、9月1日(日)	出演：文学座(高柳絢子、相川春樹、大野香織)、市民キャスト16名 台本：さいとうゆういち	目標値	130
		可児市文化創造センター演劇練習室		実績値	182
10	アール紙芝居一座公演	5月19日(日)	演目：『いっすんぼし』『おむすびころりん』 演出：高橋正徳(文学座所属・演出家) 出演：公募による市民13名 サポーター：5名	目標値	70
		可児市文化創造センター演劇練習室		実績値	186
11	平田オリザの「対話を考える」ワークショップ	11月16日(土)	講師：平田オリザ 参加者：市内の高齢者支援の現場に従事する関係者12名	目標値	20
		可児市文化創造センターレセプションホール		実績値	12
12	森山威男ドラム道場	毎週月曜	講師：森山威男	目標値	288
		可児市文化創造センター音楽ロフトほか		実績値	286
13	アール未来の演奏家プロジェクト	6月26日(水)～30日(日)	演奏：森浩司(Pf.)、長谷川彰子(Vc.) コーディネーター：佐野秀典 プログラム：プーランク／チェロ・ソナタ FP143 他	目標値	900
		可児市文化創造センター小学校2校		実績値	1,567

14	劇場フロントスタッフ研修	7/28(日)、8/25(日)、 10/14(月・祝)	講師：星乃もと子	目標値	100
		可児市文化創造センター 研修室、主劇場他		実績値	57
15	劇場に関わる人のためのア ーツマーケティング・ゼミ 「あーとま塾 2019」	Step① 5/30(木)・31(金) Step② 10/16(水)・ 17(木) Step③ 2/1(土)・2(日)	テーマ：「文化政策」、「社会包摂」、 「マーケティング」 講師：八木 匡、笹路 健、早川悟司、野 田大順、多田周平、幸地正樹、他	目標値	40
		可児市文化創造センター 美術ロフト他		実績値	108
16	シアターキャンプ ALRA(英国)との演劇交流プ ログラム	10月8日(火)～14日(月)	内容：英国式身体訓練法、ファシリテー ション法、市内小学校へのアウトリーチ 講師：クリス・ヒル、英国 ALRA 演出修士 コース学生3名、随通訳1名 参加：日本人俳優・演出経験者7名 市内からのオブザーブ参加者2名	目標値	17
		可児市文化創造センター 演劇ロフト、市内小学校		実績値	14
17	歌舞伎とおしゃべりの会	2019年5月～2020年2月	講師：中村橋吾、木ノ下裕一、中村錦之 助、葛西聖司、七代目 笑福亭松喬、山崎 徹、豊竹靖太夫、鶴澤清志郎	目標値	360
		可児市文化創造センター 映像シアター他		実績値	505
18	新日本フィルハーモニー交 響楽団おでかけコンサート	6月12日(水)、14日(金)、 19日(水)～21日(金)	出演：新日本フィルハーモニー交響楽団	目標値	400
		市内高齢者施設、病院、小 学校 計10コマ		実績値	503
19	文学座おでかけ朗読会	7月2日(火)～5日(金)	出演：山崎美貴(文学座)	目標値	1,000
		西可児中、広陵中、蘇南 中、中部中		実績値	794
20	町が元気になる処方箋	11月16日(土)	テーマ：「幸福とは？経済学の視点から 考える」 出演：平田オリザ、衛紀生、八木匡	目標値	50
		可児市文化創造センター 映像シアター		実績値	40
21	みんなのディスコ	9月28日(土)	DJ：松井 陽介、MC：川名 洋行 ACT：多治見西高等学校ダンス部、川名 洋 行、Team 可茂学園、ONES、JOY☆UP、みな ぶた from 福井	目標値	100
		可児市文化創造センター 演劇ロフトほか		実績値	123
22	ココロとカラダワークショ ップ	前期4月～7月の水曜、 後期10月～12月の水曜	講師：新井英夫、Ten seeds アシスタント：板坂記代子、松岡恭子、 亀井千恵	目標値	1,120
		可児市文化創造センター レセプションホール		実績値	855
23	世界劇場会議国際フォーラ ム2020 in 可児	1月30日(木)、31日(金)	テーマ：“文化芸術の社会包摂” 登壇者：セーラ・ジー、カス・ラッセル、 ジョナサン・ハーパー、中村美亜、栗林 知絵子、藤井昌彦、前田有作、衛紀生、 細井昭男、他	目標値	150
		可児市文化創造センター 小劇場		実績値	141
24	英国人講師による学校ワー クショップ	1月13日(月)～17日(金)	講師：Gemma Woffinden(リーズ・プレイ ハウスより派遣) アシスタント：山田久子、原口知夏、清 水万里子、かっこ英語サポーター 通訳：石井麗子(文学座)	目標値	300
		可児市文化創造センター 美術ロフト、市内小中学位		実績値	290
25	親子で楽しむワークショップ (ひとり親家庭対象)	1月26日(日)	講師：植田真介(文学座) アシスタント：浅海彩子、佐藤麻衣子(文 学座)	目標値	20
		可児市子育て健康プラザ 健康スタジオ		実績値	19

2. 自己評価

(1) 妥当性

自己評価
<p>事業計画に必要な構成要素が有機的に連関し、当初の予定通りに事業が進められているか。</p> <p>“芸術の殿堂”ではなく、すべての市民の経験と思い出の詰まった“人間の家”であることを目指し、従来型の劇場経営とは一線を画する「社会包摂型劇場経営」を推進してきた可児市文化創造センターでは、理念の実現に向けた『まち元気プロジェクト』の事業計画において3つの目標を立てている。（「全体図（概念図）」参照）</p> <p>第一の矢：感動と希望を生み出す<最高水準の舞台芸術>の提供 第二の矢：人と人を繋げていく<市民総活躍社会>の実現 第三の矢：生きづらさを解消する文化芸術による<セーフティネット>の構築</p> <p>本プロジェクトでは、芸術愛好者層をターゲットとした舞台芸術の鑑賞事業における従来型のマーケティングを「セリング重視（チケットを売る）」型から「ロイヤルティ構築（支持・信頼を得る）」型へと変革する（第一の矢）ことを目指すと共に、文化芸術を用いて「住民の孤立化の緩和」や「人と人の繋がりによる地域（市民）社会の活性化」に資する（第二の矢）ことを目指している。特に後者は可児市住民の約7%を占める外国籍住民やひとり親家庭・高齢者・障がい者・乳幼児を持つ親などが主たるステークホルダーであり、今般、大きな割合を占めるようになってきたこれら住民が生きがいを持ち、安心して暮らせることが地域の重要なニーズである。</p> <p>さらに、文化芸術の持つ力を最大限に活用することで、これら住民が感じている生きづらさを解消する「セーフティネット」になる（第三の矢）ことも目標としている。周りに悩みを相談できる相手がおらず、子育てにストレスを感じている親には、ワークショップを通じて同じ悩みを抱えている親たちとの仲間づくりを行ったり、外出する機会が減って孤独を感じたり健康に不安を抱えている高齢者には、ワークショップをはじめ劇場に関わることで楽しさや生きがいを持っていただく事業を展開している。可児市文化創造センターでは、これら対象者や課題を一括りにせず、それぞれに対してどのようにアプローチすることが社会課題の解決に繋がるのかを熟考して多岐に渡るワークショップやアウトリーチを実施しており、世代や家庭環境など様々な状況の住民全員を誰一人孤立させないよう、何らかの形で劇場に関わることでできる仕組みを作り上げることができている。これらの取り組みは、劇場が地域の「共通資本」として本質的な役割を果たすための「強み」となっている。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p> <p>総合支援事業5年採択の2年目となる2019年度は、可児市文化創造センター（ala）と“北部イングランドの国立劇場”とも称されるリーズ・プレイハウス（LP）との間で2015年3月に締結された「グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）」の目玉である国際共同制作公演のプロダクション・イヤーにあたり、衛 紀生館長兼劇場監督の就任以降13年に及ぶ可児市文化創造センター「社会包摂型劇場経営」の営みにおける一つの“集大成”と呼ぶに相応しい年であった。</p> <p>本番を迎えるまでに丸4年の歳月をかけてきた本プロジェクトでは、両館が共有する「地域に開かれ、地域と共に生きる劇場」という理念に沿って、高水準の鑑賞公演を制作するだけでなく、青少年が演劇を通じて出会い、言葉を越えたコミュニケーションの可能性を共に発見する『To See You, At Last プロジェクト』や、LPのクリエイティブ・エンゲージメント部門スタッフの指導による「ファシリテーター入門講座」「学校ワークショップ」など人材育成・アウトリーチに関するプログラムも展開してきた。また、元LPの演出スタッフが専任講師を務めている英国の演劇学校ALRA（アルラ Academy of Live & Recorded Arts）からのオファーにより、同校の海外実習の一環として、演出修士号を目指す英国の学生と日本の若手演劇人たちがコミュニティ・アーツ・ワーカー（地域課題に取り組む芸術家）の役割と実践などを共に学ぶ「シアターキャンプ」を開催するなど、英国との関係を軸とした当館独自の「国際ネットワーク」が見事に開花しつつある。</p> <p>同時に、年間500回を超える地域の社会課題解決に向けたコミュニティ・プログラムも継続的に実施している。多文化共生プロジェクト2019では、「死」にまつわるカルチャー・ギャップを明るくポップに描いた『にぎやかなお葬式』を上演して、出演者・観客がお互いを身近に感じ、隣人として共生する意識を醸成した。</p> <p>また、地域で活動する様々な団体と連携し、お互いの強みを活かして事業の効果を高めている。「多文化共生」は国際交流協会、「一人親家庭の親子」は母子寡婦福祉連合会、「小・中学生対象」は市教育委員会などが該当する。これらの団体と連携することで対象者（課題当事者）にアプローチしやすくなる他、現場の状況を知ることができ、対象者がどういったことを必要としているのかを確認できる。連携団体にとっても、劇場という専門外の領域と関わることで改めて対象者との関わり方に気づきを得ることも多い。当館だからこそ提供できる鑑賞事業・アウトリーチプログラムが体験できることも、連携団体側にとって大きなメリットとなっている。</p>

(2) 有効性

自己評価

目標を達成し、アウトカムの発現は可能か。

【大目標（手段）】

社会包摂(social inclusion) ～誰一人孤立させない社会～

【視点1】測定方法について

『まち元気プロジェクト』では、事業の性質に応じて定性的・定量的な測定方法によりアウトカムの発現を確認している。また「社会包摂」のような長期的アウトカムの発現を前提とする社会的価値を「見える化」するため、様々な関連指標を定め、予測的に成果を数値化する**社会的投資収益率（SROI）**による測定を可見市と協力してコンサルタントに委託し、適時行っている（本年度は実施せず）。

◇定性的測定…アンケートによる**満足度調査や参加レポート、実際に事業に参加した人の生の声を聴く（反省会、同窓会 etc.）**、「鑑賞モニター制度」などによる情報収集

◇定量的測定…**実績数値**：会計システムおよびASP 票券管理システム「Gettii/ゲッティ」による利用料金・入場券等販売分析、フロントスタッフ（NPO 法人アーククルーズ）による入場者数集計、利用者アンケートによる利用者数集計など

予測数値：社会的投資収益率（SROI）ひとり親家庭、乳幼児と保護者、高齢者を対象にしたワークショップにて実施（2018 年度）

◇その他（**連携効果**）…当館では、目標の達成・事業アウトカムの測定の目安として**地域資源である各種関係機関との連携を重視**している。事業推進に隣接するこれら機関は、日常的に対象者（課題当事者）と関わっており、対象者の状況を把握している他、事業の案内窓口となってもらうことで、より多くの参加者が見込める。一方で、文化芸術を活用したアプローチについては専門外であり、当財団が企画した事業を実施することでその活動にバリエーションが生まれる。今後も連携機関と継続的に協力し、お互いの「強み」を生かしていく協同体制を構築していく。

【視点2】目標の達成（促進要因と阻害要因）* データは抜粋

◇定性的評価（達成○ 課題あり△ 未達成×）

○公演ジャンルのバランス…バランスが取れている **85%**（「鑑賞モニター制度」10 名へのヒアリング）

○有料公演の公演満足度…大変良い、良い **87%**（鑑賞者アンケート集計）

○コミュニティ事業の満足度…新しい仲間ができた、居場所になっている **92%**（参加者アンケート集計）

○学校 WS の満足度…児童：仲良くなれた友達がいた **89%**、友達の表現が面白かった **98%**

先生：今後の学級経営に生かしたい **100%**（児童・先生アンケート集計）

○高齢者 WS の満足度…心と体が解放され、仲間ができた **100%**（参加者アンケート集計）

△ひとり親家庭 WS の満足度…ストレスが軽減 **100%**、新しい仲間ができた **50%**（参加者アンケート集計）

◇定量的測定（達成○ 課題あり△ 未達成×）

実績数値：

○主催鑑賞公演数…**64 本** [指標：昨年度実績/6 公演増]

○貸館（ホール）事業数…**204 公演(2018 年度実績)** [指標：年間 180 公演以上]

○補助対象事業の総入場者・参加者数…**9,613 人 (105.6%)** [指標：年間 9,103 人]

○アークフレンドシップ…**14,301 人**（2020 年 3 月現在） [指標：5 年後(2023 年)に 15,000 人目標]

○パッケージチケットの販売…**1,193 パッケージ** [指標：5 年間 4,000 パッケージ、昨年度実績 **172 増**]

○コミュニティ事業の実施…**一般 13 事業、学校教育 7 事業 (98 回/のべ 3,379 人)**

○社会課題解決事業の実施…**6 事業 2,887 人**

予測数値：（2018 年度測定結果）

○ひとり親家庭 WS **SROI 値 1.76**（支出額に対して 1.76 倍の経済的投資効果がある）

○乳幼児 WS **SROI 値 1.46**

○高齢者 WS **SROI 値 3.47**

◇その他（**連携効果**）・外国籍住民との多文化共生…**国際交流協会**

・ひとり親家庭の孤立化防止…**母子寡婦福祉連合会** など

(3) 効率性

自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んでいるか。

【視点1】事業期間について

2019年度は、補助金の対象となる事業が25件あり、4月の「ココロとカラダワークショップ」を皮切りに2月「あーとま塾2019 Step③」まで、全対象事業を期間内に実施完了した。

新規の大型創造企画が複数予定されていたこともあり、個々の事業を期間内に実施するだけでなく、いくつかの事業を有機的・効率的に関わらせる工夫を施した。「世界劇場会議国際フォーラム2020」「あーとま塾2019」では、期間を連続させ、英国や国内機関などの先進事例を学ぶセッションと、国内の劇場関係者が現場の課題を直接議論するゼミとを組み合わせることで、大きなビジョン（ポリシー）と現場のアクティビティ（エビデンス）を結び付けるロジック構築の重要性への深い理解に役立てることを目指した。

また、本年度は、可児市からの委託事業として開催した日英共同制作公演『野兎たち／Missing People』（総事業費：約9,000万円）のプロダクション・イヤーにあたり、両館の中核的なスタッフたちが、打ち合わせや戯曲創作WS、オーディション、リハーサル、公演などを行うために、2週間～1か月に渡る長期間、お互いの国へ度々渡航するなど、通常の業務運営人員の確保が難しく、突発事案への対応（ビザ申請や滞在中のトラブル処理など）に忙殺されることもあった。

さらに、コロナ・ウイルス禍による3月開催予定だった公演の中止やキャンセル対応なども重なり、3月末の経理処理や窓口対応、実績報告書の作成などに相応の業務負担を伴った。

なお、当館では現在、3月16日から約10か月間に渡り、開館から18年目にして初の「大規模改修工事」が行われている。

【視点2】事業費について

支出面においては、当初要望時に比べて、**決算時は全体で約400万円（6.23%）減少**した。

◇支出増 1,451,860円（10事業＋バリアフリー対応）

[大きな増要因] 1 To See You, At Last プロジェクト／23 世界劇場会議国際フォーラム2020

（2事業で全体の61.4%増）

◇支出減 5,384,228円（15事業＋多言語対応）

[大きな減要因] 5 多文化共生プロジェクト／16 シアターキャンプ／24 英国人講師WS／27 多言語対応

（4事業で全体の51.4%減）

◇考察

支出の増・減ともに主たる要因に挙げられた事業は、**海外の団体、アーティストとのつながりを前提とする公演**であった。海外とのコミュニティ事業においては、2019年度事業プログラムを詰めていくギリギリのタイミングで決定するものが多かったため、渡航費や報酬の負担割合、台本や舞台製作規模などの細かな要因が未確定の状態で大枠の覚書に沿って予算案が立てられている場合が散見され、大きな反省点である。

ただ一方で、新規に開催するコミュニティ・プログラムの場合、参加者や創作の流れによって適宜、目的に合致する目標（手段）の調整・最適化という作業も伴っているため、執行科目が当初の想定とは違ってくる場合もある。

今後、継続して行われる事業が多いことから、次年度以降、こうした実績に基づいて、アウトプットについては、より適切かつ計画性の高い事業運営を目指していく。

(4) 創造性

自己評価

事業計画の内容が、独創性、新規性、先導性に優れている（と認められる）か。

【視点1】キーパーソン・専属団体・フランチャイズ団体・提携団体の存在、創造活動に関わる建物設備ほか

可児市文化創造センターの事業計画が独創性、新規性、先導性を発揮するためのキーパーソンとなっているが、当館の館長兼劇場総監督 **衛 紀生** の存在である。芸術文化振興基金運営委員会委員、地域文化・文化団体活動部会部会長などを務め、全国 10 数地域の自治体文化行政に関わるなど、芸術文化の分野に留まらず活躍の場を広げている。平成 28 年度には芸術選奨文部科学大臣賞（芸術振興部門）を受賞し、朝日・日本経済・中日・岐阜・愛知保険医など各種新聞をはじめ、週刊女性など様々なマスメディアに取り上げられており、メディアを見た団体や自治体、個人からの問い合わせも多い。全国に当館の活動を広く知らしめる「旗振り役」となっている。

事業プログラムの「独創性、先導性」に欠かせないのが提携団体である。当館はそれぞれ高水準な芸術性と多様な文化芸術人材を発掘・養成するノウハウを持つ**文学座**と**新日本フィルハーモニー交響楽団**の2団体と「地域拠点契約」を結んでいる。これにより本公演のみならず、障がい者や乳幼児を抱える親たちが気兼ねなく楽しめるオープン・シアター・コンサートや夏休みの子供たちのために市民と一緒に芝居をつくるプロジェクト、ワークショップや学校・福祉施設に出向くアウトリーチ、鑑賞者との茶話会など、質の高い様々な活動を地域に提供している。

また、事業プログラムの「新規性」という観点においては、**英国リーズ・プレイハウス (LP)** との間で 2015 年 3 月に締結された「グローバル提携（人事交流および国際共同制作に関する提携）」および日英共同制作公演『**野兎たち／Missing People**』の成果が特筆に値する（「2. 自己評価（1）妥当性」の頁参照）。

なお、2002 年の開館から今年で 18 年目を迎える当館は、特定天井の改修、空調設備・給排水設備等の更新、オストメイト対応トイレの設置や建築照明の LED 化、舞台照明卓の更新・電源のカムロック化、ITV 回線の増設等、**「利用者の利便性の向上や安全対策」、「エネルギー消費の効率化」、「創造環境の最適化」などを目的とした大規模な改修工事**を実施している（2020 年 3 月中旬より 2021 年の 1 月初旬までの 10 か月間、一部の施設は 2020 年 10 月より利用再開の予定）。

【視点2】プログラムの独創性・新規性・先導性、文化芸術情報のアーカイブ蓄積・発信

当館の事業計画が、独創性・新規性・先導性に優れているのは、前述のキーパーソン・提携団体の存在もさることながら、その企画内容において従来型の劇場が目指しているような「最高水準の舞台芸術の提供」に留まらず、文化芸術による効果・恩恵の対象を**芸術鑑賞者層以外の幅広い市民層**に広げようとしている点にある。

また当館では、事業の目的・性格や対象者（課題当事者）に合わせ、可児市の国際交流協会や母子寡婦福祉連合会など地域で活動する団体とも連携している（次頁『コレクティブ・インパクト・マップ 2018』参照）。

特に「独創性」の高い点としては、障がい者や乳幼児、小・中学生など**劇場に足を運ぶことが難しい層をターゲットにしたプログラム**が豊富である点が挙げられる。劇場から一番遠くにいる人たちに、鑑賞を楽しむ体験を持ってもらうことで「人と人を繋げ、市民が活躍できる社会を実現する（第二の矢）」「文化芸術により生きづらさを解消するセーフティネットを構築する（第三の矢）」という目標の実現を進めている。これら「ワン・トゥ・ワン」のサービスを求められるプログラムを柔軟に対応できるのも、**当館の理念を理解している連携団体の協力**があつてのことである。

そして忘れてはならないのが、事業の目的に合わせて独創性、先導性を高めることのできる講師・スタッフやさまざまな事業のサポートに積極的に関わって下さる**ロイヤルティあふれる市民の皆さんの存在**である。ダンスアーティストの新井英夫、劇・あそび・表現活動の Ten Seeds といったワークショップの講師陣は、いずれも専門ジャンルで優れたスキルを有しているだけでなく、参加者が気持ちよく過ごせるよう、場を整えるコーディネーターとしても高い能力を有している。当館の社会包摂事業では、自身の技術を披露するよりも、**参加者の緊張や生きづらさに寄り添うことのできる講師**を採用しており、特にこの点が参加者から高い評価を得ている。

また当館では、ワークショップに参加した人が表現する楽しさを覚え、他のワークショップに参加する事例が多く見られる。しかも当人だけでなく、その子どもが市民参加事業に参加し、親がサポーターとして活躍する例もあるなど、どの年齢層も劇場を中心に関わられる仕組みを構築している。事業への参加は公演などの鑑賞者開発にも繋がっており、演劇や古典芸能、クラシックなどそれまであまり観たことのなかった分野にも興味を持つきっかけとなっている。

自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながっている（と認められる）か。

【視点1】国内外での評価の向上（対外戦略の事例）

◇国内関係機関からの視察対応件数： **36件/312人**（2019年度実績）

◇日英共同制作公演『野兎たち/Missing People』の創作上演に伴う国際（英国）マーケットへの進出
 作：ブラッド・バーチ 訳：常田景子 演出：マーク・ローゼンブラット、西川信廣（文学座）

【東京公演】2020年2月/新国立劇場・小劇場（9公演）

【可児公演】2020年2月/可児市文化創造センター・小ホール（7公演）

【英国公演】2020年3月/Leeds Playhouse, Cortyard Hall（4公演）

*当初予定した12公演のうち8公演がコロナ・ウイルス禍に伴う劇場のロックダウンにより中止

【視点2】ステークホルダーの期待、地域のニーズ（地域戦略の事例）

◇『コレクティブ・インパクト・マップ2018』より



(5) 持続性

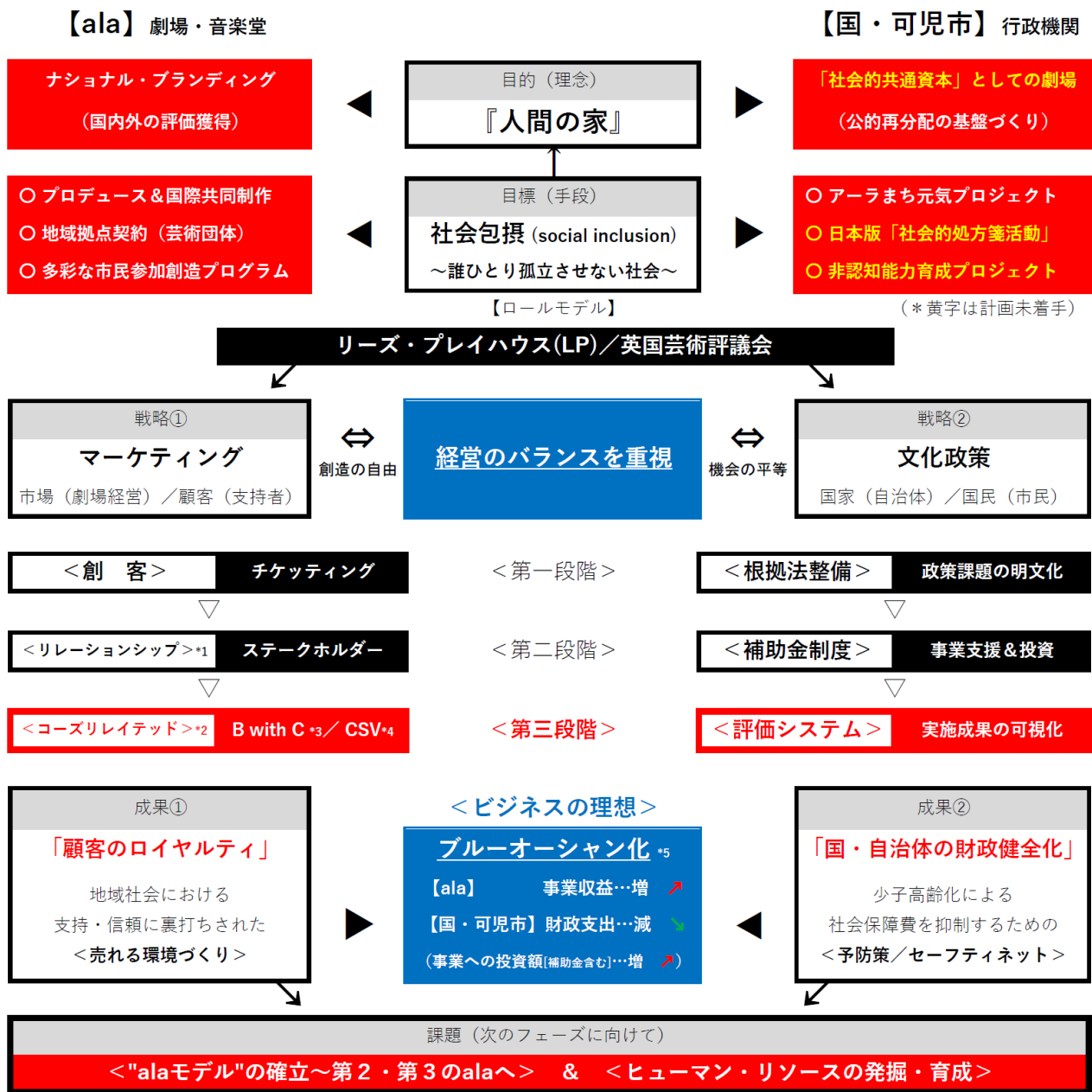
自己評価

事業計画を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。
 持続的なアウトカムの発現・定着が期待できるか。

可児市文化創造センターでは、劇場のマーケティングおよび国・自治体の文化政策を軸とした組織活動の「持続的な発展」に向け、10～15年後を見据えた長期的なビジネスモデルをデザインしていく。

なお、リーズ・プレイハウス芸術監督のジェイムス・ブライニング氏は、今後「社会包摂型劇場経営」の更なる深化を目指して、社会的処方箋活動を視野に入れたalaとの協力を継続していくとの意向を表明している。

“可児市文化創造センターala”のビジネスモデル（持続的な発展に向けて）



*1 顧客との距離を縮めること *2 社会貢献に結び付けること *3 Business with Customerの略 *4 共有価値の創造 *5 競合相手のいない領域